

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	警防業務に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	松本禎久			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	継続的に講習会を実施することにより、講習修了者を増やす。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	継続的に講習会を実施することにより、講習修了者を増やす。
②①に基づく取り組み結果	継続的に講習会を実施することができた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民・市内事業所の従業員	意図(対象をどうするのか)	市民に心肺蘇生法、AEDの使用法、応急手当の方法の普及啓発をはかり、有事の際にしっかりした応急手当が出来るようになる。
②事務事業の概要	救急車が到着するまでの間、現場に居合わせた人により効果的な応急手当が実施できるよう、市民及び各種団体を対象に救命講習を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	AEDが一般市民にも使用可能になったことにより、初期の救命処置が注目されるようになった。心肺蘇生法のガイドラインの変更により実施方法の変更講習項目が細分化され、今後さらなる受講者数の増加が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	市広報紙、ホームページ等で地域住民に参加を呼びかけ、消防本部で普通救命講習Ⅰ(一般市民向け:成人を対象)・Ⅱ(一定頻度者向け:成人を対象)・Ⅲ(一般市民向け:小児・乳児を対象)を40回実施し、538人が参加、また上級救命講習(一般市民向け:成人・小児・乳児を対象)を3回実施し、52人が参加した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	普通救命講習修了者数	641	823	590	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	16,968	15,849	金額(千円)	内容	15,346		
国支出金(千円)			15,849	救命講習の推進			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	16,968	15,849			15,346		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	継続的に講習会を開催し修了者を増やすことが重要。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	継続的に取り組み検証し、対応することが安全に暮らせる社会に繋がる。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防団運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	2	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	松本禎久			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	人員及び施設の維持管理と定数確保のため、消防団活動のPRを継続して行い、消防団の重要性、必要性和協力を求め、理解を深める。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	消防団施設の機能維持管理及び人員確保と装備の充実化を図る。
②①に基づく取り組み結果	イベント等参加時に消防団活動のPRを実施し、入団者を確保した。結果として8名の入団希望者を確保したが、退団者が13名いるため、定数に達していない。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団員、消防団施設 消防団車両	意図(対象をどうするのか)	災害活動に関する消防団員の環境整備及び消防団施設の機能維持管理
②事務事業の概要	各種災害に出動して中心的な役割を果たす消防団を維持するため、計画的な運営を図るとともに、取り巻く環境を整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	産業・就業構造の変化等による被雇用者(サラリーマン)の増加と若年層の流出、また、消防団員の高齢化がさらに進み、入団者の減少による定員割れが予想される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	地域の災害活動に従事するとともに、安全なまちづくり体制の確立を図るため、市民まつり、消防広場において消防団PRを実施。また、施設点検の結果に基づき、消防団詰所の修繕を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	消防団員の定数に対する充足率	97.6	97	97.0	%	業務取得
	ii	機械器具点検人員	480	480	480	人	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	23,862	22,719	金額(千円)	内容		24,000	
国支出金(千円)			5,528	消防団員報酬			
県支出金(千円)			4,469	費用弁償			
市債その他(千円)			1,267	健康診断手数料			
一般財源(千円)	23,862	22,719	3,986	千葉県市町村総合事務組合負担金		24,000	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	消防団の装備、施設の機能維持管理及び人員確保。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	東日本大震災の教訓から、危機管理体制や地域防災力の向上など、防災に関する市民ニーズは上昇傾向にあり、今後においては更に高まると予測できるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由	流用・充当					
	平成26年度への繰越額(単位:千円)					